



とみさわコミュニティ ニュース



令和8年10月7日 第4号
富沢地域間連携推進協議会
会長 佐藤 晃章
事務局 井上・大場
富沢地区公民館内 TEL 45-2527

「とみさわコミュニティニュース」第4号では、五穀豊穡等を祈る富沢地区内の集落の秋祭りとサロンの様子を取り上げました。

守り継ぐ地域の氏神様や観音様 ～万騎の原、一刎、堺田、笹森、富沢で秋祭り～

そもそも秋は「実りの秋」といわれるほど農作物の収穫の季節であり、その主収穫であるコメの秋の豊作に感謝した農民が「田の神をもてなす」ことを目的に農村部で音楽や踊りを披露したのが秋祭りの発祥とされています。さらに、集落の氏神社や観音様毎に、「災厄防除」「豊作祈願」「家内安全」などのために神輿や獅子舞が地域内を巡る行事とあいまって、現在につながる秋祭りが形成されてきたそうです。

道路交通網が未整備でテレビもなく娯楽が少なかった昭和30年代までの農村地域にとって、祭りは信仰とともに、エンターテインメント性をもつ年中行事であり、共同体維持の役割も担っていたと考えられます。しかし、近年の急速な人口減少や少子化により、担い手不足などで存続の懸念が大きくなっています。ご多分に漏れず富沢地区の各集落の祭りを訪問してみても、その実施にあたってのご苦労ぶりをうかがい知ることができました。一方、“祭りは大事なので何とか続けねば”という気構えと、“祭りでこそ集落内のコミュニティを”という意気込みを感じ取ることもできました。

9月6日に万騎の原「山神社」と一刎「山神様」の例祭が行われました。万騎の原では、二十数名の方々が集まり祈祷が行われ、併せて万騎の原古戦場碑で慰霊供養も行われました。一刎山神様では、ほとんどの世帯の方々が神事に参列され、その後御札や供物、おでんが振舞われていました。両集落ともに、終了後は公民館に集い、設けられた懇親の場で会食やレクを楽しんでいました。

万騎の原



一刎





9月13日は堺田「八幡宮」と笹森「国分（こぶ）大明神」で、それぞれ例祭が行われました。堺田「八幡宮」ではきれいに整えられた境内と社内で神事が執り行われていました。「神社」よりも規模の大きいものが「宮」と称されるとのことで、堺田の歴史的な経緯とも関連があるそうです。また、奈良時代に小国郷の開拓に尽力されたと伝わる田澤内匠介の息子右近介のお社とされる笹森「国分大明神」では、通常の神事の後に夕方6時をメドに木板を叩くことを合図に、参拝の皆さんにおふかしなどを配るという習わしが今年も続けられていました。

熱気球



あいにくの曇り空
でしたが、最高の
空中散歩でした。

さらに、19日の前夜祭、20日の富山馬頭観音秋大祭の富沢まつりには、関東圏もがみ友の会と仙台圏もがみ町友の会の会員の方々約50名が訪れ、素人演芸大会や伝統芸能を参観されました。また、特別イベントの「熱気球フライト体験」では、120名ほどの皆さんが空中からの景色を楽しんでおられました。



サロン訪問【下小路編】

富沢地内の各集落サロンを随時訪問させていただいています。第4号でもその様子を簡単にレポートします。今回は「下小路サロン」です。

「下小路サロン」は原則毎週月曜日の午前9時から公民館で行われています。毎回10名前後の参加者で、百歳体操の実践とトークタイムを楽しんでいます。

また、月に一回の特別な親睦懇親プログラムも計画され、健康づくり教室やスポレク、音楽鑑賞、芋煮会などを楽しんでいます。さらに、毎回、ご自慢の漬物などの差し入れや茶菓子をつまみながら、話を大いにはずませ、笑い声が絶えない仲良しサロンになっています。写真は、「輪投げ」を楽しんでいる様子です。

